

SUMP発刊 記者会見

令和4年10月24日

一般財団法人 地域公共交通総合研究所

代表理事 小嶋光信



持続可能な都市モビリティ計画の策定と 実施のためのガイドライン

第2版



『European Platform on Sustainable Urban Mobility Plans』

『持続可能な都市モビリティ計画の策定と 実施のためのガイドライン 第2版』

2022年10月22日 第1刷発行

発行所_一般財団法人 地域公共交通総合研究所

【定義】

以下の持続可能な都市モビリティ計画の定義は、欧州および国際的に広く受け入れられている。

「持続可能な都市モビリティ計画とは、生活の質（QoL）を向上させるために、都市とその周辺に住む人々や経済社会活動におけるモビリティニーズを満たすように設計された戦略的な計画である。これは、既存の計画手法に基づき、総合、参加、評価の原則を十二分に考慮したものである。」

従来の交通計画と持続可能な都市モビリティ計画の違い



© 2022 Ryobi Group All Rights Reserved.

図1: 従来の交通計画と持続可能な都市モビリティ計画の違い

▶ ガイドライン_10ページ

図1

| 従来の交通計画の策定 | | 持続可能な都市モビリティ計画の策定 |
|---------------------|---|--|
| 交通流に焦点 | → | 人に焦点 |
| 主たる目的: 交通流の容量と速度 | → | 主たる目的: アクセシビリティと生活の質 (社会的公平性、健康と環境の質、 経済活力) |
| モードごと | → | すべての交通モードの統合的な発展 と持続可能なモビリティ への移行 |
| インフラに焦点 | → | インフラ、市場、規制、情報、プロモーションの 組み合わせ |
| セクター別の計画文書 | → | 関連する政策分野と整合性のある 計画文書 |
| 短期・中期の実施計画 | → | 長期ビジョンと戦略 の中に位置づけられた短期・中期の実施計画 |
| 単一の行政区域をカバー | → | 通勤パターンに基づく 都市圏域 をカバー |
| 交通工学の領域 | → | 学際的な プランニングチーム |
| 専門家による計画 | → | 透明性のある参加型のアプローチを用いた、 ステークホルダー や市民を巻き込んだ 計画 |
| 限られた影響評価 | → | 学習 と改善を促進するための体系的な 影響評価 |

SUMP策定の12ステップ(第2版) – 意思決定者向け概要



© 2022 Ryobi Group All Rights Reserved.

図2: SUMP策定の12ステップ(第2版) - 意思決定者向け概要

▶ ガイドライン_17ページ
図 2



© Rupprecht Consult 2019

このマークは、SUMPプロセスにおいて政治が関与するポイントを示している。